

輸送1500キロ 細心の注意

防寒万全に 檻包むシート4枚 振動を警戒 75キロで高速道走る

旭山動物園にキリン到着

旭川市の旭山動物園に十九日午前、到着したキリン(一歳の雌)は名古屋市の東山動物園から千五百キロの道のりを二泊三日かけ、陸路とフェリーで運ばれてきた。キリンは神経質なうえ、子どもでもつま先から頭までは三指もあり、きりきりで檻に入る高さ。大きな振動や急ブレーキで首を痛めれば致命傷になりかねず、寒さも大きな障害となった。輸送業者と動物園が頻りに連絡を取り合い、細心の注意を払った輸送の舞台裏を紹介する。(相川康暁)

日本動物園水族館協会(東京)によると、キリンの移動には走行が安定している海上輸送を使うことが多いという。しかし、今回は夏期開園が迫っていることから、交通渋滞の比較的小さい高速道路を選択し、一部フェリーも使った。

キリンは二トトラックに乘せられ、十七日午前九時半に東山を出発。東名道から東北道へ八戸に到着し、フェリーを使って苫小牧まで来た後、道央道で旭川まで運ばれた。輸送業者はたった一人。ハンドルを握っている間「急ブレーキを

に二回休憩し、水分補給用の青草と餌の干し草を与え、体調管理にも万全を期した。夜間は風で檻が冷えるため、移動は午前八時から午後六時半まで。業者はトラックに乗

ったまま、キリンと一緒に防風シートを三枚増の四枚にした。最も神経を使ったのは気温。キリンは寒さに強くないため、業者は携帯電話で天気予報サイトから進行方面の天候を調べ、気温五度以下の場合、移動を避けた。八戸では降雪で予想以上に気温が低く、トラックの速度を落とすとしてフェリーを便寄せた。

道内に入ってからは防寒対策も。名古屋と旭川では最高気温が一〇度以上の差があり、檻を包む

北海道銀行

22日に園内清掃奉仕

「動物園くらぶ」参加者を募集

23日に周辺で

北海道銀行の旭川市内店舗に勤務する行員たちが二十二日、休園中の旭山動物園を訪れ、園内の清掃ボランティア活動を

行った。翌二十三日には、旭山動物園くらぶも市民の参加を募って同動物園周辺

を清掃する予定で、夏期開園を二十九日に控えた同動物園はボランティア機運の高まりを歓迎して

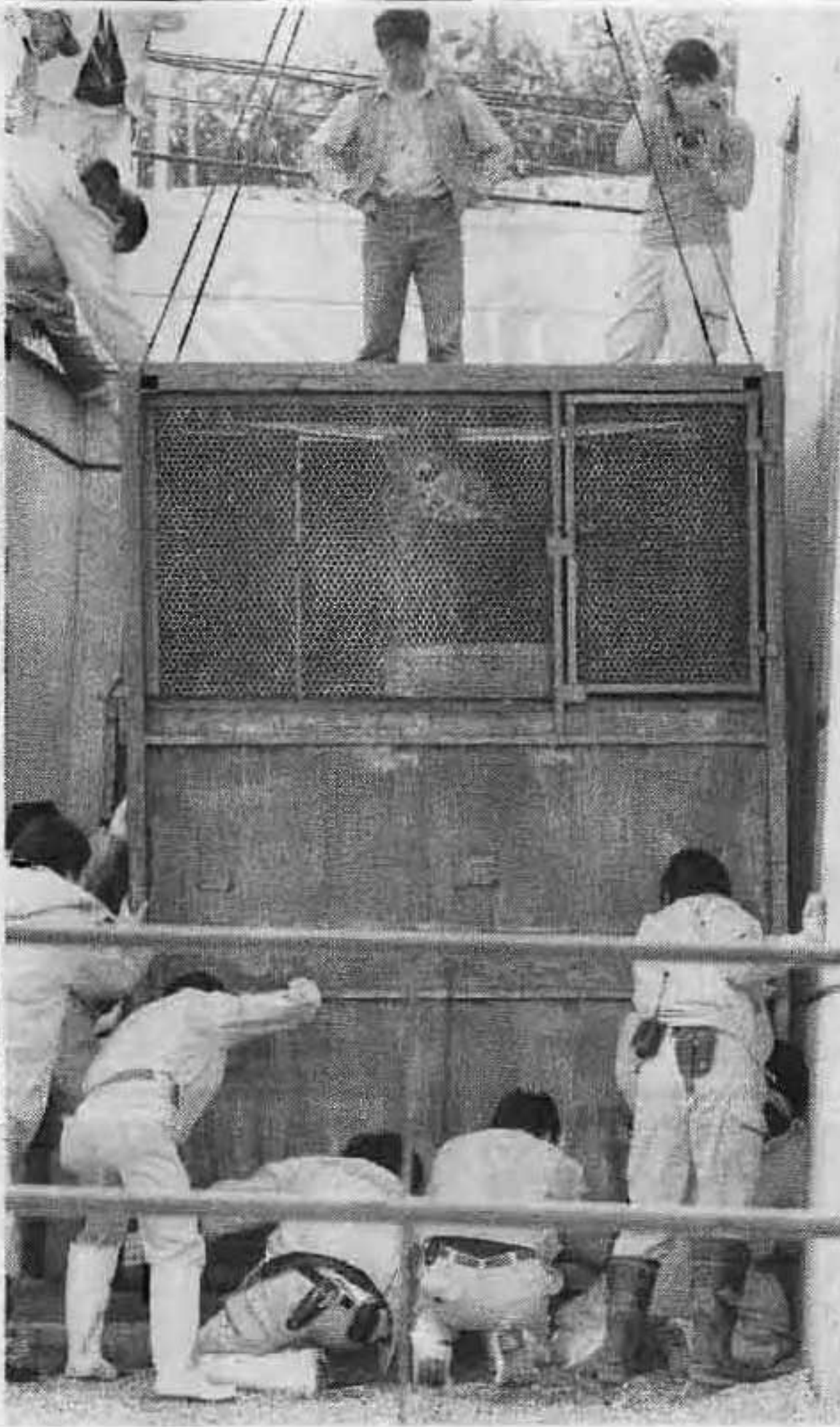
同行のボランティアは、同行の創業五十五周年を記念した活動。「日ごろお世話になっている地域の方にお返しを(旭川支店)と市内五店舗のほぼ全行員約九十人が、休日返上で園内の休憩スペースなどを約二時間かけて清掃する。

また二十三日には、旭山動物園くらぶが同動物園周辺の清掃を行う。ボランティアを募集中で、現在約五十人が参加を予定している。

同動物園も「動物園に對して温かい気持ちを持っていただき、ありがとうございました。仕事などで忙しい中、大変うれしい話」と歓迎している。

二十三日の清掃の参加申し込みは、同くらぶ0166・36・7167へ。

(福本泰範)



檻に入って無事、旭山動物園に到着したキリン(岩崎勝撮影)